

関係代名詞の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール: 「名詞+S+V」を省略の合図として読み、目的格の節が作れる

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 目的格と「何も置かない形」(省略)まで見ます (whose・前置詞+関係代名詞・コンマつきは出しません)

気づき AとB、和訳はほぼ同じ「母の作るカレーは世界一だ」。何が違う？ (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	The curry my mother makes is the best in the world.	母の作るカレーは世界一だ。
B	My mother makes the best curry in the world.	(直訳) 母は世界一のカレーを作る。

Bは「母」の話、Aは「カレー」の話。Aの主語は The curry my mother makes という大きな名詞のかたまりで、日本語は「母の作る→カレー」と前から、英語は名詞のあとから説明を足します。ここには関係代名詞 that が隠れていて、会話では何も置かない形がいちばんふつう—「名詞+S+V」と並んだら省略の合図です。

整理 関係代名詞の3つの型

形	作り方	表すこと	例文
主格 who (人)	人 + who + V	～する人	I have a friend who can ski. スキーができる友だちがいる。
主格 which (物)	物 + which / that + V	～する物	That is the dog which bit me. あれがぼくをかんだ犬だ。
目的格 (省略できる)	名詞 + (that) + S + V	SがVする～	The bag I use was a present. 使っているかばんは贈り物だった。

これで「主格2つ+目的格」がそろいました。この帯の主演は「名詞+S+V」=省略の合図です—The bag I use every day のように、会話では目的格を置かない形がいちばんふつう。長文で「名詞のあとにいきなり S+V」が来たら、切れ目ではなく説明の始まりです。書くときの約束は1つ—節の中に it や them を残さない (which が代名詞の席ごと前に出ています)。

確認 () 内から正しいほうを選ぼう。 **知識・技能**

- (1) I have an aunt (who / which) works at a zoo as a vet.
- (2) The bus (who / which) goes to the stadium is full on game days.
- (3) We stayed at a hotel (who / which) was built over a hundred years ago.
- (4) The cookies (that / who) my sister bakes always disappear in a day.

関係代名詞の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	who	先行詞 an aunt は人で、うしろは works = 主語が欠けている。人の主格は who。
(2)	which	先行詞 The bus は物。文全体の動詞は is。
(3)	which	先行詞 a hotel は物。建物でも「人が住むから who」とはしない。
(4)	that	うしろが S+V = 目的格。実は何も入れないのがいちばんふつう。

つまずき① 主格の関係代名詞を省略してしまう

省略できるのは目的格だけ。主格を省略すると、1つの文に動詞が2つ並んで壊れます。「名詞+S+V」(省略OK)と「名詞+V」(主格=省略不可)を並べて見せると直りが速くなります。

× I have a cousin plays the drums in a band. → ○ I have a cousin who plays the drums in a band.
a cousin のうしろがいきなり動詞=主格の節。主格の who は省略できない。

つまずき② 節の中に代名詞を残す

関係代名詞は節の中の代名詞が前に出た姿です。it が which になって前に出たのに、元の席にもう一度 it を書くと席が二重になります。日本語の「それを」が残る、和訳経由の誤りです。

× This is the bag which I bought it last week. → ○ This is the bag which I bought last week.
which が it の席ごと前に出ている。bought のうしろは空けておく。

つまずき③ 節の中の動詞の数をまちがえる

主格の関係代名詞のうしろの動詞は、先行詞に合わせて形を決めます。直前の名詞まで戻って確かめる習慣を—先行詞と節が離れる長い文ほど起きやすい誤りです。

× I know some people who likes the singer very much. → ○ I know some people who like the singer very much.
先行詞は some people = 複数。who のうしろの動詞は like。

授業のひとつ 導入はカレーの2文だけで十分です。そのあと1分、教科書や身の回りから「名詞+S+V」のかたまり探しをさせてください—見つけた数だけ「省略の目」が育ちます。

